

## 平成17年度教育研究業績書

氏名 上野 誠

最終学歴	1990年3月国学院大学大学院文学研究科博士課程後期単位取得満期退学 (日本文学専攻)
取得学位	博士(文学)
所属学会	万葉学会・上代文学会・古代文学会・古事記学会・日本書紀研究会・和歌文学 会・全国大学国語国文学会・日本文学協会・日本民俗学会・日本山岳修験学 会・東アジア古代学会・宗教史研究会・宗教史懇話会セミナー・奄美沖縄民間 伝承学会・儀礼文化学会・芸能史研究会・民俗芸能学会・上代文学研究会・上 代文献を読む会・古代研究会・古代談話会・美夫君志会・国学院大学国文学 会・京都民俗談話会・奈良民俗談話会・宗教民俗学会・近畿民俗学会・日本学 談話会・祭祀史料研究会・奈良大学国語教育研究会・大阪歴史学会・風俗史学 会・万葉語文研究会(順不同)
現在の専門分野	日本文学(古代文学)
研究課題	万葉文化論、万葉挽歌の史的研究
<b>【研究上の特記事項】</b>	
<p>全国大学国語国文学会理事、上代文学会理事、日本文学協会委員、万葉学会編集委員、民俗 芸能学会編集委員、美夫君志会常任理事、古事記学会理事、国学院大学国文学会委員、日本 山岳修験学会理事、東アジア古代学会理事。短期学会出張・・・東アジア古代学会において 研究発表、続いて理事会出席(韓国・世明大学、2005.11.24～28)。近時、全国大学国語国 文学会の60周年記念論文集に「万葉民俗学と万葉文化論の将来」と題する論文を執筆し、 新しい研究方法の模索を主張した。(印刷中)。</p>	
<b>【教育上の特記事項】</b>	
<p>コミュニケーション・カードを用いて、双方向的授業の展開を心がけた。また、飛鳥・藤 原・奈良などの文学遺跡の現地踏査や見学会によって、学生の古代文学への関心を高めよう と努力した。また、ホーム・ページ「上野誠の万葉エッセイ」<a href="http://www.manyou.jp">http://www.manyou.jp</a>によっ て、啓発活動を行っている。</p>	
<b>【社会的活動】</b>	
<p>奈良県立万葉文化館万葉古代学研究所副所長 中国・蘇州大学中日比較文化研究所客員研究員 全国大学国語国文学会学会賞選考委員 平城遷都1300年事業協会評議員 奈良県教育研究所視聴覚教育専門委員 橿原市観光懇話会座長 橿原市観光協会顧問</p>	
<b>【学内活動】(学内職歴を含む)</b>	
<p>劇団ぬーだ顧問 奈良大学学校法人設立80周年記念誌編纂委員長 奈良大学学長選挙選挙管理委員 奈良大学文学部人事委員長</p>	

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
1 『小さな恋の万葉集』	単著	2005/12/1	小学館 単行本 1頁～127頁	万葉恋歌の積義を、できるだけ平易にし、現代詩として鑑賞できるようにした著書。
2 『千年の恋歌——万葉集』(韓国語)	単著	2006/3/11	J&C(韓国・ソウル特別市) 単行本 1頁～228頁	翻訳者・朴相鉉(パク・サンヒョン)慶熙サイバー大学国際地域学部日本学科専任講師。 万葉歌の喜怒哀楽の表現を論じ、そこから展開される感情表現の特質について論じた著書。
(学術論文)				
1 「左手の奥の手——『万葉集』巻九の一七六六番歌」	単著	2006/2/20	学燈社 別冊国文学60号「右左／みぎひだり」 53頁～59頁	『万葉集』巻九の一七六六番歌にある「左手の奥の手」という表現の背後にある慣習を明らかにし、そこから当該歌の表現の特性について論じた論文。
2 平成16年国語国文学界の動向〔上代 韻文〕	単著	2006/3/31	全国大学国語国文学会 「文学・語学」184号 33頁～36頁	平成16年国語国文学界の動向のうち、「上代」の「韻文」について、その傾向を論じた学界展望。
(学会発表)				
1 坂上郎女と駿河麻呂	個人発表	2005/6/12	美夫君志会研究発表会	万葉後期の贈答歌の特質を論じた。ことに、親族間の書簡のやりとりと歌表現との関わりを論じた研究発表。
2 今、万葉びとに学ぶ——心と言葉——	講演	2005/11/4	第36回日本看護学会(看護管理)	日本語の心情表現の一つとして万葉歌を取り上げ、心情を表現する方法について論じた。そこから、看護に関わる言語環境について参考になる事案を示したシンポジウム基調講演。
3 天平の庭、民の庭——東アジア<庭園>文化研究の一助として——	個人発表	2005/11/25	東アジア古代学会	近時の東アジアにおける庭園発掘を踏まえて、万葉歌における庭園について論じた研究発表。
4 大伴家持の恋人たち	講演	2006/2/12	因幡万葉歴史館大伴家持シンポジウム	家持と紀女郎との贈答歌を取り上げて、甘えや攻撃の心情と、その比喩との係わり合いについて論じたシンポジウム基調講演。

(その他)				
1 エッセイ 「君が目の 恋しきから に(上)」	単著	2005/4/1	飛鳥保存財団 「明日香風」第94号 22頁～24頁	齊明天皇の筑紫行幸にまつわる文学を 紹介するエッセイの上。
2 紹介 「『渡瀬昌忠著作集』八 巻・補巻一」	単著	2005/4/30	万葉学会 「万葉」第192号 58頁～61頁	戦後の人麻呂研究をリードした渡瀬昌 忠の万葉研究の特質を論じた書評。
3エッセイ 「君が目の 恋しきから に(下)」	単著	2005/7/1	飛鳥保存財団 「明日香風」第95号 22頁～24頁	齊明天皇の筑紫行幸にまつわる文学を 紹介するエッセイの下。
4 エッセイ 「万葉おもしろ主義で」	単著	2005/7/7	「朝日新聞」夕刊 14頁	奈良大学における古典授業のFDを紹介 して、新しい古典教授法のありように ついて問題提起したエッセイ。
5 エッセイ 「万葉恋歌新訳抄 (上)」	単著	2005/10/1	飛鳥保存財団 「明日香風」第96号 22頁～24頁	現代の若者言葉で訳した万葉歌新訳を 紹介したエッセイの上。
6 エッセイ 「甘樫丘の夕陽と飛鳥川 の恋と」	単著	2005/11/25	平凡社 別冊太陽「飛鳥 特 集」 40頁～45頁	飛鳥の万葉歌をわかりやすく紹介し、 万葉歌の環境について論じたエッセ イ。
7エッセイ 「万葉と遊ぶ 50」	単著	2005/12/5	「産経新聞」朝刊 26頁	万葉文化館万葉古代学研究所の所員に よる所蔵万葉日本画をめぐるリレー連 載。
8 エッセイ 「万葉恋歌新訳抄 (中)」	単著	2006/1/1	飛鳥保存財団 「明日香風」第96号 24頁～26頁	現代の若者言葉で訳した万葉歌新訳を 紹介したエッセイの中。
9エッセイ 「万葉と遊ぶ 54」	単著	2006/1/30	「産経新聞」朝刊 26頁	万葉文化館万葉古代学研究所の所員に よる所蔵万葉日本画をめぐるリレー連 載。
10 エッセイ 「訳文と個性」	単著	2006/2/11	毎日放送ラジオ製作部 「ラジオ・ウォーク解 説」 5頁～6頁	万葉歌の訳文の方法を示して、さらに 訳者の個性について論じたエッセイ。
11 エッセイ 「春日野の梅、藤原清河 の別れ」	単著	2006/2/25	美研インターナショナル 「ライア」創刊号 13頁	光明皇后と藤原清河との歌をやりとり を解説したエッセイ。
12 解説 「解説——二つの故郷と 地図の空白と」	単著	2006/3/10	講談社 堀内民一『大和万葉旅 行』 350頁～356頁	民俗学的方法によって、万葉歌生成の 環境を考究した同書の方法について論 じた解説。
13 講演筆記録 「今、万葉びとに学ぶ— 心と言葉—」	単著	2006/3/25	看護管理学会 「看護」2006年3月臨時増 刊特別講演・シンポジ ウム収録号 176頁～180頁	看護学会での講演筆記録。万葉歌のに おける心情表現を通じ、看護の現場に おける言葉のありようを考えた講演の 抄録。